

問題 I

以下の問題文の空欄 (1) (2) から (11) (12) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (13) (14) から (キ) (25) (26) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

「帝国」の定義はいまだ研究者の間で論争があるとはいえ、次のようなものが一般的である。すなわち「広大な領土をもった複数の民族を内包する統治単位であり、支配する中央と、従属し、時には地理的に離れた周縁とに分かれる」というものである。このような定義の下では、世界史はその大部分が帝国興亡の歴史といえる。

帝国とよべる政治単位が歴史上最も早く出現するのは、古代オリエント、すなわち現在の西アジアからエジプトにかけての地域であるといわれている。紀元前3000年頃のナイル川流域で生まれた ^(ア)古代エジプト王国や、紀元前2000年頃のメソポタミアでおこった ^(イ)バビロン王朝などがこれにあたる。イタリア半島においては、都市国家であったローマが次第に帝国へと移行した。その領土拡大、特に地中海進出の契機となったのが、紀元前264年から紀元前146年の間にフェニキア人の植民市であるカルタゴと戦った、3回にわたるポエニ戦争である。第1次ポエニ戦争でローマは地中海貿易の重要な中継地であった (1) (2) 島を獲得し、これが最初の属州となった。ローマはさらにギリシアや小アジア方面へも進出し、紀元前2世紀末には地中海のほぼ全域を支配した。ローマ帝国ではその後内乱が続いたが、紀元前20年代のオクタヴィアヌス帝の時代から、五賢帝時代の2世紀にかけては治安が安定し、パックス＝ローマの時代として知られている。この時期には帝国領土内に多数のローマ風都市が建設された。その街並みは、79年の火山噴火で灰に埋まりながらも18世紀以降に発掘された (3) (4) 遺跡において現在でもかいまみることができる。

13世紀には、モンゴル帝国が築かれた。始祖であるチンギス＝ハンとその後継者たちは、ホラズム朝、西夏、アッバース朝などを滅亡させるとともに、ロシア・東欧を支配下におき、ユーラシア大陸を東西に結ぶ大帝国をつくった。広大な領土を抱えたモンゴル帝国では、宗主である大ハンが直轄するモンゴルの他、チンギス＝ハンの子孫たちが治める4つのハン国がつくられ、それらが大ハンのもとでゆるやかに連合する形で統治がおこなわれた。しかしチンギス＝ハンの死後、大ハン位の相続争いが相次いだ。フビライ＝ハンが第5代の大ハン位に就いた頃には約40年にわたる (5) (6) の乱がおこり、モンゴル帝国の分裂は決定的となった。フビライ＝ハンが国号を中国風の元と定め、首都をモンゴルのカラコルムから中国の大都（北京）へと移した。彼はまた東アジアでの領土拡大をも試みたが、日本の鎌倉幕府、ベトナムの (7) (8) 朝の抵抗にあい、これらの国への侵攻は失敗に終わった。

15世紀末からはヨーロッパ諸国が海外の遠隔地を領土とし、帝国を築いていった。その端緒をきったのは新航路開拓を進めた ^(ウ)スペインとポルトガルであるが、やがて後発勢力であるオランダ、イギリス、フランスが台頭する。オランダとイギリスは東南アジアに対する支配をめぐる争いが、17世紀初期におこったアンボyna事件を契機に、オランダはインドネシア水域からイギリスを追放することに成功した。これ以後、オランダは東南アジアでの勢力を確立する。その一方で、 ^(エ)イギリスはインド経営に専念することになった。イギリスはまた、フランスとも植民地獲得の争いをくりひろげた。18世紀初期のスペイン継承戦争の講和条約として締結されたユトレヒト条約では、イギリスはハドソン湾地方、 (9) (10) 、ニューファンドランドをフランスから獲得した。またインドでも、イギリスがプラッシーの戦いやカーナティック戦争でフランスを破り、その勢力を確立していった。インドをめぐる争いに敗れた ^(オ)フランスは、インドシナの植民地化を進めた。

19世紀になると、産業革命を背景に、西欧列強は自国の余剰資本・製品の輸出市場や、原材料の安価な調達先を国外に求めるようになった。この時期の西欧列強による帝国の建設は、植民地支配だけでなく、それ以外のさまざまな方法を用いておこなわれた。たとえばイギリスは、市場を確保することを主要な目的として、 ^(カ)19世紀初期のラテンアメリカ諸国の独立を支持した。西欧列強はまた、不平等条約を多くの非西欧諸国と結んだ。その先駆けとなったのが、 ^(キ)アヘン

戦争後にイギリスが清と結んだ1842年の南京条約および1843年の虎門寨追加条約である。1844年には、アメリカ合衆国、フランスが同様の条約を清と結んでいる。イギリスはまた1855年にタイとの間で、治外法権と低関税率を定めた不平等条約である (11) (12) 条約を結んだ。このような西欧列強の勢力圏拡大の動きは19世紀末から20世紀初期にかけて一層激化し、第一次世界大戦勃発の一因となったといわれている。

設問

- (ア) 古代エジプトでは象形文字の一種であるヒエログリフが使用されていた。この文字の解読を可能にしたのが、ナポレオンによるエジプト遠征の際、1799年に発見された、ロゼッタ＝ストーンとよばれる石碑である。この石碑にはヒエログリフとデモティックの他に、解読の鍵となったもうひとつの文字が刻まれていた。その文字は何か。 (13) (14) 文字
- (イ) バビロン王朝では神殿付属の高い塔が多く建設された。『旧約聖書』にある「バベルの塔」伝説はこの塔をもとにしているといわれる。この塔は何とよばれているか。 (15) (16)
- (ウ) スペインとポルトガルが1529年に結んだ、アジアにおける両国の勢力範囲を定めた条約は何か。 (17) (18) 条約
- (エ) 18世紀末にイギリスがインドで導入した、旧来の地主・領主層に土地所有権を認めて彼らから地税を徴収する土地税徴収制度を何というか。 (19) (20) 制
- (オ) フランスのベトナム進出に対して、ベトナムでの宗主権を主張する清はベトナムに出兵し1884年に清仏戦争が勃発した。このとき黒旗軍を組織してフランスと戦ったのは誰か。 (21) (22)
- (カ) 19世紀初期のラテンアメリカ諸国の独立に大きな影響を与えたものに、1780年にアンデス高原でおこった先住民による反乱がある。これは何か。 (23) (24) の反乱
- (キ) アヘン戦争勃発頃の世界各国の地理・情勢について記した『海国図志』は、世界情勢を正しく認識して列強の侵略に抵抗すべき、との主張を展開した書物であり、幕末の日本の指導者に大きな影響を与えた。この書物を著した公羊学者は誰か。 (25) (26)

〔語群〕

- | | | | | |
|-------------|---------------|------------|-------------|---------------|
| 01. アカディア | 02. アッピア | 03. アマースト | 04. アラム | 05. アリクブケ |
| 06. ウォード | 07. ウズベク | 08. 王夫之 | 09. カザン | 10. カトー＝カンブレジ |
| 11. 魏源 | 12. キプロス | 13. 教皇子午線 | 14. ギリシア | 15. 楔形 |
| 16. 阮 | 17. コルシカ | 18. サパタ | 19. ザミンダーリー | 20. サラゴサ |
| 21. サルディーニャ | 22. サン＝ドマング | 23. ジズヤ | 24. シチリア | 25. ジググラト |
| 26. ジブラルタル | 27. 章炳麟 | 28. ストゥーパ | 29. 銭大昕 | 30. 段玉裁 |
| 31. 陳 | 32. トウパク＝アマル | 33. トウルイ | 34. トルデシリャス | 35. ニーム |
| 36. ハイドゥ | 37. 莫 | 38. パルミラ | 39. バンコク | 40. ピニョー |
| 41. ヘブライ | 42. ペルシア | 43. ペルセポリス | 44. ボーリング | 45. ポンペイ |
| 46. マジ＝マジ | 47. マチュピチュ | 48. マルタ | 49. マルドゥク | 50. マンサブダール |
| 51. ミノルカ | 52. ライヤットワーリー | 53. ラガシュ | 54. ラシュタット | 55. ラタナコーシン |
| 56. 李 | 57. 劉永福 | 58. 梁啓超 | 59. ルイジアナ | 60. 黎 |

問題Ⅱ

以下の問題文の空欄 (27) (28) から (41) (42) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (43) (44) から (エ) (49) (50) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

中世から近代にかけての法の形成および発展の背景には、文化・思想・哲学などの時代思潮がうかがえる。ヨーロッパを例にとりながら、具体的に概観してみよう。

中世においては、ヨーロッパ文化の発展に大きく寄与した「12世紀ルネサンス」が重要であろう。この時代は、ラテンおよびギリシアなどの古代文化への回帰を通して、さまざまな学問分野を再び深化させることが目指された。たとえば、ラテン語古典では、ヴェルギリウスやキケロ、代表作『転身譜』で知られる (27) (28) らの作品などがさかんに研究された。また、科学の復興に対しては、数学、^(ア)天文学、医学などにおいて、ギリシアやアラビアの豊かな学識がその基礎を提供した。哲学では、キリスト教思想とギリシア哲学との合理主義的・体系的調和を図ったスコラ哲学が台頭し、アベラールは、普遍論争の対象となった哲学理論である (29) (30) 論を主張した。この理論は、後に13世紀において、イギリスのスコラ学者であるウィリアム＝オブ＝オッカムや (31) (32) によって支持されたが、彼らは、神への信仰と人間の理性との分離を唱えて、近代的合理主義への足がかりを築いた。さらに、歴史著述に関しては、ローマの政治史を記したタキトゥスの著作『 (33) (34) 』などが取り上げられた。

ところで、このような学問的再発見は、高等教育制度においては大学の成立を促し、近代につながる組織的研究・教育体制の確立をもたらした。大学においては、一般教養科目として (35) (36) などの7自由学科が教授され、大きな大学は哲学・法学など4つの専門学部を有していた。とくに法学に関しては、『ローマ法大全』における古代ローマ法および教皇令による教会法の註釈がおこなわれた。これについては、ボローニャ大学がヨーロッパ大陸の法科大学における法学教育の範型となり、それが、ヨーロッパ大陸における普通法（共通法）の形成において、重要な基礎となったのであった。中世における法形成は、このような古代文化の再興の一環として位置づけられるのである。

16世紀には、宗教改革以後、多くの国において封建的貴族領主に分散していた権力の統一化が進み、絶対主義的国家が形成されるに至った。ボードンは、主著『国家論』において、国家における王権を理論的に正当化した。しかしながら、17・18世紀になると、絶対君主に対抗する市民の台頭とあいまって、宗教的な伝統や古代文化を批判し、合理主義と個人主義に立脚した人間の理性と個人の自由を基調とする、啓蒙主義的な近代自然法思想が提唱された。フランスでは哲学者 (37) (38) が、ディドロとともに、『百科全書』の編集にあたり、啓蒙思想の普及に努めた。この思想は、市民革命の基盤となり、^(イ)ロック、ルソーなどが、その推進において重要な役割を果たした。なお、イギリスではその後、ヒュームなどが社会契約論を批判し、ベンサムあるいは (39) (40) に代表される功利主義の発展をみることになる。

他方、ドイツにおいては、^(ウ)諸ラント（領邦）および都市の発展にともない、ローマ法を範に採る普通法ではなく、ドイツ固有の法形成および法統一が求められるようになった。この要請に応えるべく、^(エ)カントは、個人の自由意志に基づく自律を基礎に据えた法哲学を提唱し、彼のドイツ観念論は、やがてヘーゲルによって完成された。さらに、『中世ローマ法史』を著した法学者 (41) (42) は、歴史主義と民族精神に基づくドイツ固有の法典編纂を主張した。

設問

(ア) 古代天文学の集大成と評される『天文学大全』の著作で知られる、ギリシアの天文学者は誰か。

(43) (44)

(イ) ルソーは『社会契約論』において、主権の絶対性を説き、その本質を一般意志に求めたが、このような理論を何とよぶか。(45) (46) 論

(ウ) 中世ドイツにおける都市の法形成の起点となったのが、国王・諸侯から与えられた自治権であった。このような権力の委譲を根拠づけた文書を何とよぶか。(47) (48)

(エ) カントは、政治理念の側面において共和政を支持したが、1795年に刊行され、共和政の確立およびそれに基づく世界連邦論を唱えた彼の著作名は何か。『(49) (50)』

〔語群〕

- | | | | |
|-------------|-------------------|-------------|----------------|
| 01. アダム＝スミス | 02. アリストタルコス | 03. アルクイン | 04. アンセルムス |
| 05. 医術 | 06. 永遠平和のために | 07. エウクレイデス | 08. エピクテトス |
| 09. オヴィディウス | 10. 王権神授 | 11. 音楽 | 12. ガレノス |
| 13. 金印勅書 | 14. 君主 | 15. 経験 | 16. 合理 |
| 17. コペルニクス | 18. コント | 19. サヴィニー | 20. サッフオー |
| 21. 七月勅令 | 22. 実在 | 23. 史的唯物 | 24. 社団国家 |
| 25. 純粹理性批判 | 26. ジョン＝ステュアート＝ミル | 27. 神学 | 28. 神国 |
| 29. 臣従令 | 30. 人民主権 | 31. 戦争と平和の法 | 32. 対比列伝 |
| 33. ダランベール | 34. ティエール | 35. トウルバドール | 36. ドウンス＝スコトゥス |
| 37. 特許状 | 38. 人間不平等起源 | 39. 年代記 | 40. パスカル |
| 41. ピンダロス | 42. フィヒテ | 43. フィルマー | 44. フォイエルバッハ |
| 45. プトレマイオス | 46. フランシス＝ベーコン | 47. 平和への復帰 | 48. 封土 |
| 49. 方法叙説 | 50. ボシュエ | 51. ホラティウス | 52. マラー |
| 53. 唯名 | 54. ラプラス | 55. ランケ | 56. リカード |
| 57. リスト | 58. 倫理学 | 59. 歴史 | 60. ロジャー＝ベーコン |
| 61. ローマ史 | | | |

問題Ⅲ

以下の問題文の空欄 (51) (52) から (65) (66) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (67) (68) から (オ) (75) (76) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

来世志向、現世拒否の思想を有する世界宗教と、現世を支配する政治権力とは、本来相容れない側面もあるが、両者はいかにして並存してきたのであろうか。

仏教の開祖ガウタマ＝シッダータは、涅槃に至るための修行方法である (51) (52) を実践することですべての人が等しく解脱しうることを唱え、既存の階層身分制度に対して挑戦的な教えを説いた。その後、仏教は着実に信者を増やしていったので、影響力を拡大した仏教と対立せずに、これを保護し、利用しようとする政治権力が現れてきた。原理上、^(ア) 仏教には世俗の問題への干渉を控えようとする態度があるとされ、このことも、政治権力が仏教を保護下に置き、親密な関係を結ぶ際に有利であったようだ。中国で仏教が広まる契機の一つとなったのは、五胡十六国の後趙が西域のオアシス都市 (53) (54) 出身の僧仏図澄を重用したことであった。朝鮮半島でも、都である金城に仏教文化を開花させた (55) (56) などが仏教を保護した。このように、政治権力が宗教を保護することが、両者の緊張を解く一つの方策であった。

宗教指導者が自ら政治をおこなうことで、政治権力との緊張を回避する場合もある。それは創成期のイスラームにおいて典型的に見られる。メッカを占領したムハンマドに続き、その後継者である正統カリフは、ササン朝やビザンツ帝国から領土を奪取し、イスラーム帝国を築いていった。イスラームは、宗教的事柄のみならず、刑罰、租税、戦争といった統治に関わる諸事をも定めた^(イ) イスラーム法を有しており、仏教とは対照的に政教合一を原理としている。さらに原理上は、最高指導者であるただ一人のカリフの下に、イスラーム共同体は統合されているはずであった。だが、カリフの地位を受け継いだアッバース朝に対抗して、後ウマイヤ朝や (57) (58) 朝の君主もカリフを称するに及び、カリフの地位は政争の具と化した。形骸化しつつも存続していたカリフは、トルコ共和国政府によって1924年に廃絶された。これを受けて (59) (60) がカリフを自称したが、彼がメッカ周辺に建国していた王国も間もなく崩壊したために、名目上もカリフの地位は消滅した。しかし、現在も多くの国家がイスラーム法を尊重するなど、^(ウ) イスラームは国家に多大な影響を与え続けている。

キリスト教は、『新約聖書』に「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」という記述があることで、政治とは一線を画そうとする思想を有していたといわれる。しかし、イエスはローマ帝国の総督によって処刑され、以後約3世紀にわたりキリスト教はローマ帝国の迫害を受けた。長期にわたる激しい迫害により、キリスト教徒は政治権力への敵愾心や不信任感を募らせていった。その後、キリスト教は影響力を拡大し、ローマ帝国をはじめとする多くの国々で国教となり、政治権力とともに^(エ) 「異端」、「異教」を弾圧することもあった。しかし、国ごとに分裂した教団を束ねる強力な超国家的組織を持たなかった仏教や、比較的早い段階からカリフの地位が形骸化したイスラームとは異なり、たとえばカトリック教会やその信者の忠誠は、政治権力よりも、超国家的な組織の長であるローマ教皇へと向けられることがしばしば見られた。そのため、たとえ国教となったとしても、キリスト教と政治権力の立場は時に一致せず、両者が深刻に対立して社会を混乱させた例も少なくない。

宗教と政治権力との関係が、協調するにしても対立するにしても、さまざまな弊害をもたらしたことから、近代において政教分離という考え方が生じてきた。たとえば、国教会と結んだイギリスの絶対王政を逃れ、^(オ) アメリカに13植民地を建てたキリスト教諸教派の人々の想いは、1791年のアメリカ合衆国憲法修正第1条「国教禁止条項」に反映された。フランスでは、革命により悪化した国家とカトリック教会との関係は、1801年にナポレオンと教皇が結んだ

(61) (62) により修復された。その後、カトリック教会は大きな政治的影響力を有するようになったが、自由主義勢力や社会主義勢力の台頭により、1905年には政教分離法が制定され、カトリック教会の政治介入が厳密に禁じられた。(63) (64) でも、革命期の数年にわたる動乱の後、1917年に制定された憲法において、反カトリック的な政教分離が定められた。

現代においても、正式な国教とは位置づけられないまでも、なお多くの国家が特定の宗教を厚遇している。たとえば、スーダンではイスラーム法の施行が宣言された。そのことが一因となり非イスラーム教徒の反発をまねき、内戦が激化した。また、スリランカでは多数派仏教徒の (65) (66) 人を優遇する政策に対して少数派ヒンドゥー教徒が反発し、紛争が深刻化した。

設問

(ア) 仏教が政治権力と衝突することもある。チベットでは、1959年、貴族、仏教僧侶らが中国政府に対して反乱を起こし、まもなく中国人民解放軍によって鎮圧された。その際亡命したチベット仏教の指導者ダライ＝ラマ14世が亡命政権を樹立した国はどこか。(67) (68)

(イ) ムハンマドの言行に関する伝承で、イスラーム法の基盤となったものは何か。(69) (70)

(ウ) イスラームが国家に及ぼす影響の大きさを反映して、たとえばモーリタニア＝イスラーム共和国のように、数か国が現在もイスラーム共和国を名乗っているが、他国に先駆けるように、1956年にイスラーム共和国を名乗り始めた国はどこか。(71) (72) =イスラーム共和国

(エ) キリスト教徒による国土回復運動が高まったイベリア半島において、迫害に耐え切れずユダヤ教からキリスト教に改宗した者を指した、本来「豚」を意味する蔑称は何か。(73) (74)

(オ) アメリカ13植民地のうち、1681年にクエーカー教徒が安住の地として建設したのはどこか。(75) (76)

〔語群〕

- | | | | |
|--------------------|--------------|-------------|----------------|
| 01. アイユーブ | 02. アシャンティ | 03. アフガニスタン | 04. アブド＝アルアジーズ |
| 05. アブハジア | 06. イエメン | 07. イギリス | 08. イタリア |
| 09. イブン＝アブドゥル＝ワッハブ | 10. イラク | 11. イラン | 12. インド |
| 13. ヴァージニア | 14. カシュガル | 15. カナダ | 16. クチャ |
| 17. 高句麗 | 18. 高麗 | 19. コンコルダート | 20. サンガ |
| 21. シーア | 22. 四諦 | 23. シャリーア | 24. 宗教寛容令 |
| 25. ジョージア | 26. シリア | 27. シンハラ | 28. ジンミー |
| 29. 新羅 | 30. スイス | 31. スナナ | 32. セルジューク |
| 33. タミル | 34. デンマーク | 35. トウルファン | 36. 敦煌 |
| 37. ネパール | 38. パキスタン | 39. 八正道 | 40. ハディース |
| 41. パリ協定 | 42. 百濟 | 43. ファイサル | 44. ファーティマ |
| 45. フィリピン | 46. フセイン | 47. プータン | 48. プワイフ |
| 49. ペンシルヴァニア | 50. ホータン | 51. ポーランド | 52. ボリビア |
| 53. ポルトガル | 54. マサチューセッツ | 55. マムルーク | 56. マラーノ |
| 57. マワーリー | 58. メキシコ | 59. メリーランド | 60. 李朝 |
| 61. 六信五行 | 62. ロードアイランド | 63. ロマ | 64. ローマ条約 |

問 題 IV

以下の問題文の空欄 (77) (78) から (95) (96) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (97) (98), (イ) (99) (100) に対する解答として最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

現代アフリカは多くの問題を抱えており、貧困そして難民などの問題はしばしばメディアを通じて報道されている。この問題を生み出している主要な原因の一つが、民族問題である。たとえば1994年にアフリカ大陸内陸部に位置する (77) (78) で発生した大量虐殺は、民族対立の最悪のケースといわれている。

アフリカにおいてこうした民族をめぐる問題が発生する原因の一つは、アフリカ諸国の国境線にある。特にサハラ砂漠以南のアフリカの国境線は、そこに住む人々の意向とはまったく関係なく、^(ア) 1884年から1885年にかけて開催された (79) (80) 会議においてヨーロッパの列強により一方的に確定された。しかしその後もヨーロッパ諸国による「アフリカ争奪戦」は続き、1898年には、イギリスとフランスの間で直接的な武力衝突が東 (81) (82) で発生した。かくしてアフリカでは国境線によって民族が分断されたり、あるいは敵対する民族が一つの国家に組み込まれるという事態が生み出されたのである。

1960年代に多くのアフリカ植民地は独立を達成するが、これは非植民地化という第二次世界大戦後の国際的な趨勢を背景として実現したものである。アジア・アフリカにおける新興独立国家の登場は、これらの国々の間に地域を越えた連帯を生み出し、それが1955年4月に開催された国際会議、通称 (83) (84) 会議として結実したといえよう。そしてこれらの諸国の連帯がナセル、(85) (86) そしてネルーの呼びかけによる1961年の非同盟諸国首脳会議の開催へと発展していった。さらに先進諸国と発展途上国の間の経済格差の是正を目指して1974年、国連の資源問題特別総会で採択された (87) (88) に関する宣言は、経済発展に取り組むアジア・アフリカの発展途上国の主体性を世界に訴えたものであった。

しかしながら1970年代以降、アジア・アフリカ諸国の間にも経済的な格差が次第に顕著となり、著しい経済成長を遂げた (89) (90) とそうでない地域の間の問題、いわゆる南南問題も指摘されるようになった。そして多くのアフリカ諸国は経済運営の失敗から国際金融機関である (91) (92) やIMFの支援を得て、1980年代以降 (93) (94) に基づいて経済の自由化を実施した。また政治面においても、^(イ) 1991年に (95) (96) 大統領のもとでアパルトヘイトを撤廃した南アフリカ共和国に代表されるように、1990年代以降、複数政党制が導入されて「民主化」を進めるアフリカ諸国が多く見られるようになった。

設問

(ア) この会議は当初、コンゴ（現コンゴ民主共和国）の領有をめぐる紛争解決のために開催されたが、最終的にこの地域を植民地支配した国はどこか。 (97) (98)

(イ) 1980年に独立して、黒人多数支配を南アフリカ共和国に先立って実現したアフリカの国はどこか。

(99) (100)

(語群)

- | | | | |
|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 01. ANC | 02. AU | 03. FAO | 04. GATT |
| 05. IBRD | 06. INF | 07. NEP | 08. NIES |
| 09. OSCE | 10. UNESCO | 11. アジア通貨危機 | 12. アルヘシラス |
| 13. アンゴラ | 14. イタリア | 15. ヴァルガス | 16. ウィーン |
| 17. エリトリア | 18. 改革開放政策 | 19. 緊張緩和 | 20. 金融資本体制 |
| 21. 構造調整プログラム | 22. 社会主義政策 | 23. 新国際経済秩序 | 24. ジンバブエ |
| 25. 進歩のための同盟 | 26. スーダン | 27. スハルト | 28. スペイン |
| 29. スリナム | 30. セシル＝ローズ | 31. ソマリア | 32. ソモサ |
| 33. タンザニア | 34. チャド | 35. ティトー | 36. ティモール |
| 37. デクラーク | 38. テヘラン | 39. ドイツ | 40. ナミビア |
| 41. パグウォッシュ | 42. パリ | 43. パン＝アフリカ | 44. バンドン |
| 45. ベルギー | 46. ベルリン | 47. プルキナファソ | 48. ブロック経済 |
| 49. ボルトガル | 50. マハティール | 51. マリ | 52. マンデラ |
| 53. ムバラク | 54. ムベキ | 55. モザンビーク | 56. モノカルチャー農業 |
| 57. ヤルタ | 58. ルワンダ | 59. ロンドン | |